

天文学と プラネタリウム

第57回



www.tenpla.net



今月のお題

■2/2~28に、東京丸ノ内でイベントを行います！

杉の樹カレッジ 異世代交流事業

天ブラの活動もだんだんと地域に根付き、定期的に開催される事業も増えてきました。今回はそのひとつを紹介します。

高梨直樹 (国立天文台 広報普及室)
平松正顕 (台湾 国立清華大学)

天ブラの活動も開始からは5年。これまでさまざまな人と出会い、そしてその度にユニークなコラボレーションを行ってきました。1回切りのイベントもありますが、定期的で開催されるようになったものも少なくありません。そのなかのひとつが、NPO法人杉の樹カレッジと毎年行っている「異世代交流事業」です。毎年、天文学を志す学生や若手研究者を派遣し、天文講演会+座談会を行っています。

杉の樹大学

杉の樹カレッジの主催する杉の樹大学は、東京都杉並区に在住する60歳以上のシニアを対象とした市民大学です。60名弱の学生が在籍しており、今年度の受講生の平均年齢はなんと69歳！中には90歳に近い方もいて、さかんな活動を行っています。件の異世代交流事業は、天ブラとしては天文学の魅力に触れる機会として、杉の樹カレッジとしてはそういった若者とコミュニケーションをとる機会として、両者の協力の下で行われるもので、今年で3回目になります。

今年の異世代交流事業に参加したメンバーは

全部で9名。下は学部生から上は研究員まで、20代のメンバーで固めました。最初にメンバーの自己紹介を行った後、MitakaPlusを使って地球から宇宙の果てまでを概観し、最後に小グループに分かれて座談会を行いました。最初は受講生の皆さんも天ブラのメンバーも少し緊張しているように見えていましたが、後半の座談会では緊張も解け、活発に交流が行われました。

キーワードは異世代

この事業の良いところは、なんと言っても「異世代」であるところ。受講生の皆さんから見れば天ブラの学生は子どもや孫みたいな年頃です。そのような若者が、宇宙に対する想いを一生懸命語っている姿は、とても応援したくなると感想をおっしゃって下さった方もいました。また、えらい先生には聞きづらい質問、例えば初歩的に思えて聞きづらい疑問や日頃の研究生活における悩みなどについても話しやすいということも強みです。天ブラ側のメンバーにとっても、年長者の方にはいろいろ学ぶところも多く、刺激になります。実際、初めて参加した学生さん



アストロクラブの活動で日本科学未来館を訪れた高梨(左)と平松(右)。久々に二人が揃った写真です。

は、受講生の皆さんの知的好奇心に強く刺激を受けたとの感想でした。

今回参加してくれたメンバーの中には韓国からの留学生もいたのですが、韓国や日本を含めたアジアで協力して研究を進めていきたいという話には、受講生の皆さんが感銘を受けたようでした。上と下の世代だけではなく、異なる文化間でも交流を広げられるこの事業、まだまだ発展する可能性を秘めていると感じました。今から来年が楽しみです。